

かも
「醸す」を繋ぐ



-元酒蔵が新たな醸造の場に-

DISCOVERY
SHIKOKU ZAIMU KYOKU
2025, May .@三豊市



合同会社 三豊鶴

代表社員 細川 貴司

■address 香川県三豊市詫間町詫間5444

■Website <https://www.mitoyotsuru.com/>

廃業となった酒蔵をリノベーションした一棟貸しのゲストハウス。元酒蔵で醸造するのはお酒ではなく自分自身!? 地域の人も意識しない古くから存在していた“お宝”に目を向け、見事に新たな地域資源として再生させたその手腕と背景について、共同代表の一人である細川さんに取材しました。

-廃業した酒蔵を再生

-事業の経緯を教えてください

三豊鶴は、明治10年(1877年)に創業した酒蔵でしたが、2005年に廃業しています。正直私もここに酒蔵があったことを知りませんでしたが、中を見た時には「かっこいい!」と感じました。同時に、三豊市に酒蔵があったという文化が廃れてしまうのは寂しいという思いから、三豊市に所縁のある経営者5名が協同して三豊鶴を活用した取組みを始めることとなりました。

5名が出資し合って、まずは貸し酒蔵のイベント会場の整備・運営を始めました。ただ、イベント事業だけでは三豊鶴の活用としてすぐ限定的になってしまうという話になりました。ちょうど出資者の一人が本業でゲストハウスを広げているタイミングということもあって、職人が寝泊まりしていた場所を特別な体験ができる酒蔵にできないかと考えた結果、一棟貸しのゲストハウス「三豊鶴TOJI」の開業に至りました。



-共同代表を務める5名の経営者

北川さんには、瀬戸内うどんカンパニーのCUO(チーフ・うどん・オフィサー)として、四国ディスカバリーで過去に取材させていただいています。



喜田 貴伸さん
(三豊市詫間町)
建材業
株式会社喜田建材



矢野 太一さん
(三豊市詫間町)
建材加工業
株式会社モクラス



寺下 幸治さん
(三豊市詫間町)
建材土木業
有限会社西日本住建



細川 貴司さん
(三豊市高瀬町)
農業
ハラシモベース



北川 智博さん
(高知県)
プロデューサー業
瀬戸内うどんカンパニー株式会社



発端は、廃業となった蔵を何とかしてほしいとのオーナーの要望が、北川さんの耳に入ったことです。北川さんは元々東京で農業関係のスタートアップ会社を運営していましたが、三豊市が募集した地域商社の担い手に選定されて以降、三豊市において地域資源を活用した新事業の展開に取り組まれています。

北川さんの声掛けに賛同した4名の地元経営者が加わり、酒蔵を活用した新事業を展開することとなりました。

-イベントスペースへと再生

元酒蔵を活用した取組みとして、はじめに着手したのはイベント会場としての貸出しです。

かつてここで酒を醸造していたように、人と人が醸造しあう場所を創造したい。そんな想いから、もともとあった酒樽や瓶など、使えるものは残しながら5名で一つ一つ作り上げていきました。

設計図面はこの絵1枚！
地元学校の美術の先生が作成。



-利用用途は？

会場は最大で50人程度のキャパがあり、農業関係などの会合のほか、結婚式の1.5次会くらいの場としても利用されます。また、前方にステージがあるので、和太鼓の演奏会や落語会、ミュージカルの場としても利用されたことがあります。会場全体を使って現代サーカスの演目を披露されたこともありましたよ。

▼酒樽と瓶でシャンデリアを



▼酒樽の蓋はテーブルに



▼オーナーの娘さんが使っていたピアノで演奏会を！



▼壁面には瀬戸内国際芸術祭2022で書道家が揮毫した看板が



-レストランとしても盛況だったのでは？

イベント開催時にはレストランとしても営業しています。「フレンチの鉄人」と言われる坂井宏行シェフのお弟子さんであり三豊市出身の金子高也シェフに、東京からおいでいただき厨房で腕を奮っていただいたこともあります。金子シェフのフレンチを目当てに大勢のお客さんに来場いただき、ある年は9日間で延べ1200食が提供されました。スタッフは調理資格がないため、そのすべてを金子シェフ一人で対応しなければならず、圧巻の活躍に三豊鶴のメンバー全員ただただ衝撃を受けていましたね。

-宿泊施設へと再生

三豊鶴TOJIは、当時の蔵の雰囲気はそのままに、職人が寝泊まりをした場所をリノベーションし、一棟貸しのゲストハウスとして蘇らせました。



-暖簾をくぐると、一気に蔵の雰囲気を感じられますね

足元はコンクリート、頭上には木の梁、目前には当時酒造りに使用していた機材を展示しています。くぐっていただいた暖簾も、レストランの看板と同じ書道家に書いていただいたものなんです。

-さらに奥に進むと、幻想的な空間が



三豊鶴の特徴の一つに、現代アートのアーティストとのコラボが挙げられます。このタンクの内側には、瀬戸内国際芸術祭2022の際に11名のアーティストが作品を描いています。上から覗くと迫力満点！また、タンク外側の穴から覗くこともオススメです。アーティストの趣向が凝らされているので、是非ご自身の目でお確かめください。作品を残していったアーティストが有名になってパリで活動している、なんて話を聞くとやっぱり嬉しく思いますね。



◀タンクの内部はそれぞれ全く違う世界観が広がっています

-ライトアップの先には、宿泊者向けの居住エリアが！

もともと土間に暖炉があり、職人たちがこの暖炉を囲んで語り合ったり休憩したりしながら酒造りに勤しんでいたのではと思います。部屋の先には縁側があり、さらに奥には大勢で食事ができる中庭を設けています。天窗付きの中庭では、天候に左右されずBBQを楽しむことができます。中庭の壁面にもアート作品があるんですよ。



-圧巻の大浴場！



元酒蔵ですが、お酒を造る体験はできません。そこで、お客様ご自身がお米になった気持ちで「自分を醸造して楽しんでいただく」ということがコンセプトです。もともと酒米を蒸していた釜で入浴したり、サウナと水風呂（酒造りの命とも言われる「仕込み水」として使用していた地下水を使用）を満喫したりと、ご自身の体を「醸造」していただきます。

-これは人気がありそうですね！

おかげさまでTOJIの稼働率は60%前後です。なお、宿泊者は9割以上が国内の方という状況です。海外の方にも人気が出るコンテンツだと思うので、SNSの発信等を通じて海外の方にも訴求していきたいですね。

instagramで情報発信中 ➡



▲フィンランド式のセルフフローリュサウナを完備。座り心地抜群のベンチも経営者の自社製！

-地域との関係

TOJIのオープンには、地域の人から背中を押してもらったんです。当初のオープン予定は令和2年4月。コロナが猛威を振っているなかゲストハウスをオープンすることはご迷惑をかけると思い、延期を重ねていました。そんな中、9月に地域の人から「自分たちが頑張ってるのやから、もう稼働してもええんちゃうんか。」と言ってもらいました。そうやって言ってくれること自体が本当に嬉しかったですね。

今でも何かイベントを開催する時は、近隣を1軒ずつ訪問してご説明し理解をいただいた上で実施していますし、地域の人向けのプレオープンも設けています。やっぱり何か地域の人に恩返しをしたいんですよね。



-地域資源活用の工夫点

-地域資源の活用を模索する他地域へのアドバイスは？

当社のように、地域の異業種が集まることが有効だと実感しています。それぞれに本業があることで、専門的な知恵を出し合えるのはもちろん、こうした取組み自体が本業の「広告塔」の役割も果たします。出資金を出し合いますが、広告宣伝費と考えれば十分に回収できるだけの価値はあると思います。地域にとっても、各企業にとってもwin-winな状態が生まれるのではないのでしょうか。

腹を割って意見を出し合える仲間ができたことも、自分にとっての財産です。



-取材を終えて…



三豊鶴の経営者の皆さんがお互い本音で意見を出し合いながら、酒蔵をゲストハウスへ再生し、やがて地域に受け入れられ、オープンする熱いストーリーに胸を打たれました。元来地域にあったものを別のカタチで地域に戻してやるという難しいことを成し遂げるって素晴らしいと思いました。(理財課 井本)



なにもしなければ三豊鶴の文化が廃れてしまうことに対して、活用方法を考え、実際に行動に移せる点が自分には到底真似できないなと思いました。また、それだけの行動力や想いがあるからこそ地域の方々から理解や協力を得ることができ、斬新な取組みを前に進めることができるんだらうなと感じました。

(融資課 平田)



SHIKOKU DISCOVERY 2025.5 X mitoyotsuru